

# ナンキョクオキアミ 南極海

## Antarctic Krill, *Euphausia superba*

### 管理・関係機関

南極海洋生物資源保存委員会 (CCAMLR)

### 生物学的特性

- 寿命: 5~7 歳
- 成熟開始年齢: 雌 2 歳、雄 3 歳
- 産卵期・産卵場: 12~3 月、南極海の陸棚、陸棚斜面水域
- 索餌期・索餌場: 主に夏季・南極大陸寄りの南極表層水域
- 食性: (夏) 植物プランクトン、(冬) 動物プランクトン・アイスアルジー・デトリタス
- 捕食者: 海産哺乳類、海鳥類、魚類、いか類等

### 利用・用途

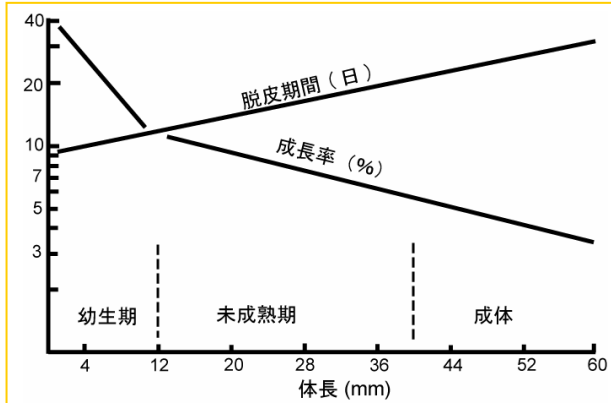
養殖・漁業用の餌料、釣餌、食品等

### 漁業の特徴

総漁獲量の累積は約 600 万トンで、そのうち、旧ソ連とその後継国のロシア・ウクライナが 80% 強、日本が 20% 弱を漁獲し、それらの 90% 以上が大西洋海区西側のスコシア海域で漁獲された。本資源の漁獲実績のある国は、チリ、ドイツ、日本、ラトビア、韓国、パナマ、ポーランド、旧ソ連、ロシア、南アフリカ、ウクライナ、英国、米国、バヌアツ等である。現在の漁場は、大西洋海区が中心で、特にスコシア海域は、漁船の寄港地の南米大陸に近く、資源も豊富と言われる。過去にはインド洋海区でも漁獲されていた。



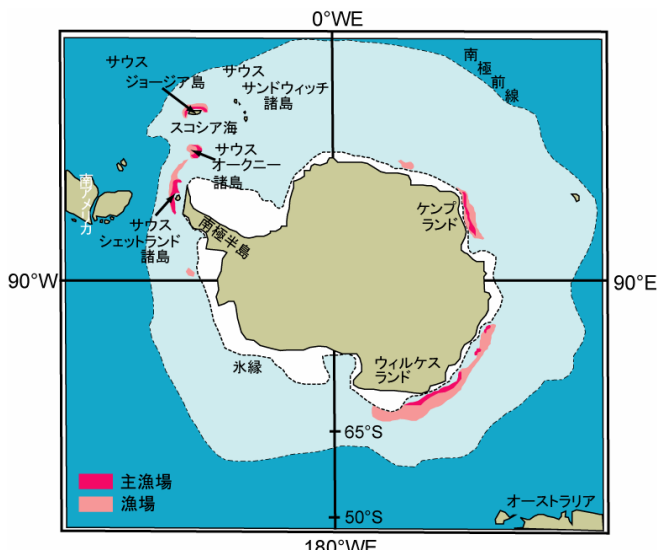
写真提供・朝日新聞社



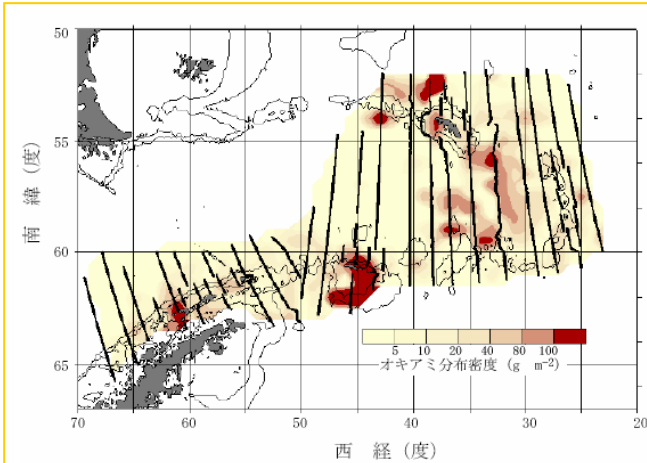
ナンキョクオキアミの生長率と脱皮期間

### 最近一年間の動き

2004/05 漁期の総漁獲数量の実績は、127,035 トンであった。国別では、第 1 位がバヌアツの 48,389 トンで、以下、韓国 26,920 トン、日本 22,793 トン、ポーランド、ウクライナ、米国と続く。2004/05 年漁期は、国別漁獲量に変化がみられ、日本は第 1 位 (33,583 トン) であったであった前漁期から漁獲量が減少し第 3 位となった。これに対してバヌアツの漁獲量は増加した。2005/6 漁期は、7 カ国の漁船により 48 海区で実施され、現時点では未集計だがほぼ 2004/05 漁期並みと予想されている。2006/07 年漁期の操業計画は、8 カ国メンバーが総計 36.8 万トンを通知している。その内訳は、ノルウェー: 20 万、ウクライナ: 5 万、韓国: 4.5 万、日本: 3 万、ロシア: 2.5 万、ポーランド: 1.4 万、チリ: 0.4 万、および米国: 未定トンであった。なお別途、バヌアツ旗国が操業を通知している。



ナンキョクオキアミの漁場・主要漁場



2000年国際共同一斉調査結果によるオキアミ分布密度

## 資源状態

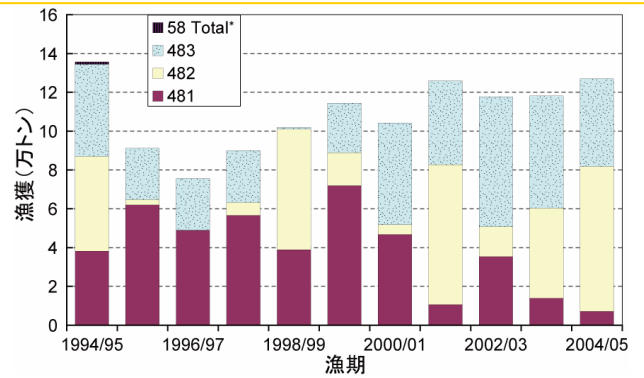
本資源の漁業が本格的に開始する1972年以前には、南極海全体で資源量は数十億トンと予想されていた。1981年に計画されたBIOMASS-FIBEX(調査面積  $396.1 \times 10^3 \text{ km}^2$ )で、スコシア海(48海区)の資源量は3,540万トンと推定された。2000年に、日・米・英・露の4カ国の調査船で、スコシア海で一斉調査を実施し(調査面積  $2065.2 \times 10^3 \text{ km}^2$ )、48海区の資源量を4,429万トンと算定した。調査面積の増加により、FIBEX値よりCCAMLR管理区域の資源量は増えた。スコシア海以外でオキアミ資源として利用されている場所は、インド洋区の58.4.1海区と、58.4.2海区であるが、その他の海区では適切な資源量は見積られていない。

## 管理方策

CCAMLRは、条約水域を海区に区分し、その海区ごとに保存管理措置を決定する。2006年現在の本資源へのCCAMLRの保存管理措置は、スコシア海・インド洋区の2海区に設定されている。さらに、ペンギン、アザラシ等のオキアミ捕食者の餌場への悪影響を分散するため、スコシア海(48海区)で漁獲量が62万トンを超える場合は、小海区(48.1、48.2、48.3及び48.4海区)に漁獲制限が適用される。

## 資源評価まとめ

- 資源評価はCCAMLRあるいはメンバー国独自の調査研究活動の成果に基づき実施



世界のナンキョクオキアミ漁獲量の海区毎の推移(1995-2005)年(CCAMLR 2006) (\*58海区は僅少)

## 漁獲の動向

2004/05漁期のオキアミ総漁獲数量実績(127,035トン)のうち、国別実績は、最大量がバヌアツ48,389トン、韓国26,920トン、日本22,793トン、以下、ポーランド、ウクライナ、米国と続く。2004/05年漁期は、国別漁獲量に変化がみられ、日本は第1位であった前漁期から漁獲量が減少し第3位となった。スコシア海48海区のオキアミ漁獲量は、1999/2000漁期以来比較的安定しているが、国別に2003/04漁期と2004/05漁期を比べると、日本(33,583→22,793トン)及びポーランド(8,967→4,335トン)が減少した。対照的にバヌアツ(29,492→48,389トン)は増加し、韓国(26,920トン)とウクライナ(22,440トン)は高位で推移している。2005/06漁期は、現時点では未集計だがほぼ昨年漁期並みである。2006/07年漁期のオキアミ操業計画は総計36.8万トンと通知されている。

## 資源管理方策まとめ

- 国際共同一斉調査(2000年)より予防的漁獲制限量を400万トンと算定(48海区)
- オキアミ捕食者の悪影響を分散させるため、小海区の予防的漁獲制限量をさらに設定

## ナンキョクオキアミ資源の現況(要約表)

| 資源水準              | 高位                         |
|-------------------|----------------------------|
| 資源動向              | 横ばい                        |
| 世界の漁獲量<br>(最近5年)  | 10.4~12.7万トン<br>平均:11.9万トン |
| 我が国の漁獲量<br>(最近5年) | 2.3~6.7万トン<br>平均:4.7万トン    |